

夢咲かせよう 立志の丘で

平成25年12月5日
No.33

PTA講演会

12月4日(水)、PTA研修部主催のPTA講演会が、秋田県立能代工業高等学校 校長 小野巧先生を講師として開催されました。

演題は「夢が自分を育てる。」です。概略をお伝えします。

○ 講演

広い学校でうらやましいなと思って西仙北中学校を見ました。春先に、一緒に野球をやっていた泉先生から講演をというお願いがありまして、本日の講演会となりました。

泉先生が高校時代に、いつも同じ話をしてみてもしょうがないので冊子をつくりました。ところどころ抜粋したものを資料として持ってきました。

はじめに、皆さんどんな夢をもっていますか？ぱっと言える人。もう20分くらいしたら、ここで話してもらおうかな。

野球部の指導の中で「二つの甲子園」ということがあります。1つは、野球の甲子園、そしてもう1つは、勉強です。勉強の甲子園とは、高校までは県大会、高校を卒業すると全国大会です。二つとも価値があることです。価値あることをやるというのは、成長に繋がります。

秋田大学に入学して4年生のときに、神宮に行きました。そこで、勝てませんでした。そのときから、よし、次は高校生を全国に連れて行きたい。そう思ったのが、高校の先生になろうと思った理由です。

そのためには、どんなことをしたか。1つは、最低の目標をもつ、ということです。これは、地区大会は2つ勝てばいいよ。県大会は2つ勝てばいいよ。東北大会でも2つ勝てばいいよ、と。そうすれば甲子園に行くことができます。そのときのチームは特別な選手がいたわけではなく、チームが壊れない程度の目標でした。

その反対に、目標を高くもたせた例もあります。仙台の大越基という投手、そして青森の白石という投手を打ち崩せない東北大会にいけないぞ、ということがありました。当時の選手は、自信がある連中がそろっていましたが、満足させるといけないので、もっと上、上、という目標をもたせることで、甲子園に行くことができました。3つ目は、平成3年の春の大会のこと。来る日も来る日も勝てなくて、どうすれば勝てるのか。選手を奮起させるには、絶好の機会だと思い「足の遅い力×100匹いたら、1番から100番まで順位がつく」それから1週間言い続けました。次の1週間は、反対に「足の速いかもしたが100匹いたらやはり1番から100番まで順番がつく」この話を言い続けました。どんな人でも工夫すれば、一番になれる、ということです。これ以上弱くなることはないので、徹底してやれ、と言いました。

今日と明日、という言葉があります。平成3年までは、明日が1番で今日が2番だと思っていました。明日のために、今日を頑張る、ということです。しかし、この平成3年以来、今日を頑張らなければ、明日に繋がらない、ということで、考えを変え、今日が1番、明日が2番と考えることにしました。どちらも大事だけれどとらえ方で変わってくると思います。

指導の中で振り返ってみると、調子のいいときは気にとめることはないのですが、逆境に立ったとき、どうするか、それが人間の真価だと思いま

す。苦しいときにどうするか。資料の29番に書いています。「どん底の時どうするか、その時に真価が問われる。」ここを見逃さないでキャッチすること大切です。

あるとき真の選手の姿がありました。土崎の1つ手前で電車を降りて、冬の間秋田高校まで走ってきた生徒がいました。意志が強いなあ、どれくらい続くのかなあと思いました。その意志は一冬を走ろうと思ったんですね。能力は普通なのですが、東北大会で8打席連続ヒットを打ちました。びっくりしました。やはり自分に対して挑戦してやり抜くと自信がつくんだなあ、と思いました。必ずやる方法はあるのだということを考えてください。得てして、やる前から無理だと思わないでやって欲しいです。

それでは夢を語ってください。

2年生佐々木望さん。1分間で。

「佐々木望です。僕は、電車の運転手になりたいと思いました。理由は、電車がとても大好きで電車の本をよく読んでいるからです。なりたい理由は、電車の走っている姿が格好よいからです。僕も、このようなお話をみんなにしたいと思ったからです」

今のスピーチは40秒でした。

もう一人。3年生伊藤悠貴さん。

「伊藤悠貴です。自分には小学校の頃から抱いてきた夢があります。小学校の頃から世界には、こんなに楽しい物があるんだと思いました。中学校に来て、今度はそういう会社に勤めてみたいと思いました。その夢は変わっていません。自分の目標は、絶対曲げないつもりでいます。自分の目標は人生の目標でもあるので、この目標に向かって突き進みたいです」

53秒です。30秒でも1分でも自分の考えを話すトレーニングをしてみてください。お二人のスピーチ、ありがとうございました。

どこにいても自分の夢を語れるようになってください。

夢をもってどのようにしたら、成果が出るかについてお話します。成果が上がらないというのは、いつも同じような失敗をしているから成果が上がらない。「先週言っただろう」とかこの「前言っただろう」ということが同じ誤りにつながります。

そうならないためには、3つ言います。

1 話をする。 2 書く。 3 動く。

この3つで色々工夫すると、この選手はこのような考えをもっているんだなあ、と理解できます。こういう術がないと相手をなかなか理解することは難しいです。

どうやって成果があがるように行こうか。

目的 強い人間たれ！

目標 自分に勝つこと。仲間に勝つこと。相手に勝つこと。

部訓 あいさつ、時間、集中力

この3つを、一致団結して取り組めば相手に勝つ。チームがまとまることが大切です。まとまらなければ勝つことはできません。練習の前に、部訓を3回唱える。「あいさつ、時間、集中力、あいさつ、時間、集中力、あいさつ、時間、集中力。」皆さんの校訓も素晴らしい。「立志 善心 叡智。」これを毎日唱えている人いるかなあ。これを追究するぞ、くらいの気持ちでやってほしい。

成功したときにどうするか？顔を上げて姿勢を正しますね。失敗したときは、下を向きます。猫背になります。できるだけ成功したときの気持ち

を持ち続けることが大切です。

資料6番、「人間は自信の無いときは後ろを見て、自信のある時は前を見る」です。12番「愚痴や言い訳をする者で、進歩する者はいない。」イチローや松井が、言い訳した場面ありますか？ほとんどありません。言い訳する人で大物になった人はいません。

私の勤務校は能代工業ですが、58回のバスケットボール部の全国優勝があります。今、59回目を目指していますが、5年間優勝していません。専用の体育館があります。AチームとBチームが分かれて練習しています。そのAチームとBチームの間には高い壁があります。体調管理に注意しています。体調を崩すとレギュラーから落とされます。毎日学校に行くと玄関前を黙々と部員が掃除しています。体育館もびかびかです。でもなかなか勝てない。皆さんの中には、勝てなければ意味がない、と考えている人もいるかもしれませんが、勝っても負けても、それは財産になります。勝って学ぶもの、負けて学ぶものがあります。全国大会ベスト16の厚い壁に向かっていきます。本校の体育館の玄関はいつも空いています。誰でも歓迎です。機会あったら見に来てください。

小・中・高とありますが、発展するレベルがあります。スポーツは人づくり、学校づくり、町づくりです。スポーツを通して自分がいい人間、立派な人間になれる方法だと思います。勝ったり負けたりすることで、クラスが、学校がまとまっていくことがあります。それが大きくなると町づくりの財産になります。能代はバスケの町を標榜していて、能代駅にはリングとバスケのボールがあります。バスケットボールは、町づくりに貢献しています。

学校の3要素ってなんだろうなあ。1つ目は「生きる力」、2つ目は「集団生活を学ぶところ」—集団生活がしっかりできないと社会でうまくやることできない。せつかくの経験ですので大事にしてほしい。3つ目は、「小中の時代から地域の一員。」若者が少ないので今から地域の一員です。そういう自覚で、地域の一員として生活してほしいです。

自分の夢が高ければ高いほど、努力が必要ですが、先輩、先生に教わるのも大事ですが、年齢が上がってきたら自立していくことが大事です。自分でコントロールしていく、このことが大切です。23番「自分のコーチは自分だ。」何歳になっても人を頼りにしていると自立できない。9番「最後まで思い続けた者が成功する。」成功よりも失敗が多いと思いますが、そこで諦めるのではなく、その後どうするか。最後まで思い続けて欲しい。1番「夢見る者は、現実には負けてはならない。」夢の実現に、現実には負けないでください。

1番から31番まであります。一日に1ページずつめくって欲しい。31の中で、自分はこれだなあ、と思うのが1つでもあれば、それを追究して欲しい。

女子マネージャーに学んだことがたくさんあります。1年生が入学したときに、先輩マネージャーがこういいました。「できないんじゃない、やらないだけだ。」戦う前に無理だ、と決めつけられないことです。女子マネージャーから教わりました。大きな夢をもって自分を自分でリードしてください。

昨年、赴任して生徒に言ったのは「挑戦こそ第一歩だ」です。2年目は「夢をもち夢に向かおう」です。夢はもつのですが、実現が難しいです。それは努力しましょうということです。42.195kmのマラソンがあります。5km、10km、40kmで力を出す生徒様々です。あせることなくいつかは、今に見ておれ、という気持ちで頑張ってください。団結して頑張ってください。集団でいますので、みんなやって達成したときの喜びは大きいでしょう。学校教育目標「学び合い 支

え合い 高め合い」、この「合い」がポイントだと思います。団結して頑張ってください。自分の経験の中からお話させていただきました。

○ 感想発表

1年A組 後藤大典さん

僕は先生の話聞いて、自分で課題をもちたいと思いました。僕は課題がもてないことがあります。勉強でも部活でも課題をもって弱い自分に勝って強い自分になりたいです。今日はたくさんのお話を学びました。学んだ事を1つでもこれからの生活に生かしたいです。

2年C組 池田百花さん

今日はとても勉強になりました。話を聞いていて、これからの日常に役立つこともたくさん聞けたし、普段の私の態度を見直して、出来ていることや出来ていないことなど、これから実践した方がいいことなどを見直すことが出来たのでよかったです。今日は本当にありがとうございました。

3年B組 佐々木優斗さん

今日の先生の講演を聴いて、一番心に残ったのは、「どん底の時どうするか、その時に真価が問われる」です。私は野球をやっていて故障が多くてチームのみんなに迷惑をかけてしまうことがありました。そのときに下を向いていないで、何ができるかしっかり行動していきたいと思いました。私は高校に行って野球をするつもりなので、相手チームへの感謝の気持ちを忘れずに、夢である甲子園に向かって頑張りたいです。今日はどうもありがとうございました。

○ 保護者感想発表 伊藤さん

小野巧先生、本日はお忙しい中、講演をいただきありがとうございました。子どもたちが夢を抱くこと、夢に向かってトライ&エラーを繰り返しながら自分たちを高めていくこと。また、学校を通して、学年、学級、友達同士で学校、地域を高めていくことの大切さを改めて確認しました。素晴らしい講演ありがとうございました。PTA、学校、地域の三位一体で大仙市の中でも素晴らしい学校となるよう、これからもPTA活動として頑張っていければと思っています。ありがとうございました。最後に、私事になりますが昭和51年春の大会で高田キャプテンのホームランが観客席に吸い込まれるのを見ることができました。当時も大変お世話になりました。

○ 質問 柳葉さん

小野先生が、これまでに失敗したことについてお話し願えればありがたいです。

○ 小野先生：本荘高校に竹内という投手がいて2年生のときに甲子園に行きました。そのチームに、9回まで秋田高校が1点リードされていたが、さよならツーランホームランを打ちました。これで甲子園だと思ったのですが、翌日秋田経済法科大学附属高校さんに負けました。これ以来、終わるまで気をゆるしてはいけないなあと思いました。同じ事が東北大会でもありました。決勝で仙台育英と当たるカードでした。戦いっぴりがよく、仙台育英を倒すのは秋田高校だろうと言われ、某新聞に翌朝大きな写真が掲載されました。結果は大敗しました。なんで気を許したのかな、と思いました。同じようなことが、9回裏、あと一人、あと一人、というコールに、よし挨拶できるぞ、と思った瞬間にレフト前ヒットを打たれました。最後の最後まで分からない、ということを知られました。この3つが苦しかったときです。この経験から、試合の喜びも苦しみも、試合が終わってからのしようと、試合から学びました。

小野先生のお話をしっかり捉えた生徒達の感想が素晴らしかったです。